

Enjoy Sports & Recreation Day

目録書

同衣食住

火健康シニア

火文化・学芸

水教育・若者

木趣味・余暇

金文化学芸

土映画

西暦・小宮 成

高城原の幼稚園で、レクリエーションをする
して交流した。2014年3月10日提供



仲間と一緒に年間プロジェクト

活動に参加する児童に寄り添った利奈の夢
2014年3月10日高城原の幼稚園提供



レクリエーションの充実感

タイから 支援の声届ける

いまドキッ

Teens

年齢や障害の有無を問わず、あらゆる人々が交流する場を設けるボランティアを行う、西九州大ESRDサークル「エンジョイ・スポーツ&レクリエーション・デー」という名の通り、ニュースポーツなどのレクリエーションが活動の中心だが、昨年、とある企画に取り組んでいた。それは、東日本大震災に対するタイからの支援の声を東北へ伝える「愛と笑顔でつながろう」プロジェクト。被災地から遠く離れたいながら、震災を忘れないタイの人々の心に触れ、企画を立ち上げた。1年間の活動を振り返り、プロジェクトを通して感じた思いを聞いた。(マキ)

西九州大 ESRDサークル

発端は昨年1月。メンバー2人がサークル外のツアーで訪れたタイで、現地の人から「津波、大丈夫?」と声を掛けられた。震災から約2年、国内で風化されつつあるのではと感じていたが、タイでは忘れ去られていないに感動した。「この声を東北に届かたい」。2人は帰国後にサークルで仲間を募り、プロジェクトを始めた。プロジェクトは、サークル活動と並行して進めなければならない。行旅や福祉施設から依頼を受け、サークルの年間活動費は100回を超える。対象者の年齢層などの条件に合ったゲームを毎回話し合った上、手作りで作るため、5人以上の大所帯にもかかわらずいつも忙し、合費を積み、以前から交流のあった東北の福祉関係者の協力を受けたがプロジェクトの企画を練り上げ、資金調達に奔走した。

学科の学生たちは「がんばるぞ!日本」と書かれたTシャツ袋で迎えてくれた。各所ではレクリエーションを通して交流、東北に向けたメッセージ集めに取り組み、「震災について考えてもらう機会になり良かった」と肥後県菜さん(22)＝4年＝は言う。タイと佐賀県内で集まったメッセージは約300人分。「応援していただきます」といった文字の中には「結婚することをお断りしては」と書かれたメッセージもあった。被災地を思い、生きることを願った言葉たちを手に、メンバーらは8月、宮城県東松島市に向かった。仮設住宅や介護施設、小学校など、5日間で6カ所を巡った。被災者や

築する中で感じたのは心のケアの必要性だった。「近所付き合いのないコミュニティが津波で壊れ、周りに話をする人がいない。寂しさを抱いている人が多くいる」と肥後さん。小学校では震災の話題が一切NGで、メッセージを見せることもできなかった。仮設住宅では、九州から訪れた学生に喜ぶ入居者との交流もあった。将来の夢を聞いてもらうと、そこには「家を持ちたい」「孫と遊ぶ」などの前向きな言葉が並んだ。訪問後、被災者の優しさや強さに触れ、泣きながら帰ってきたメンバーもいたという。約50人

からタイへのメッセージを募ることができた。同時に感じたのは、サークルで取り組んできたレクリエーションの持つ力。共に体を動かすことで自然にお互い笑顔が出て気持ちを通わせた。心のケアにつながることをメンバーたちは痛感した。吉澤由香里さん(21)＝4年＝は「目標からしていたからこそレクリエーションを設立できた。サークル活動をもっと大切にしたいと思えた」と語る。6月下旬の報告会で、1年間のプロジェクトが終わりを迎える。しかし、メンバーらの心に刻んだ「忘れない」という思いは強い。「これからも、できる形を模索して支援を続けていきたい」と誓った。

22日に報告会

学生以外も参加OK

「愛と笑顔でつながろう」プロジェクト報告会は22日午後2時半から、埴埴市の西九州大埴埴キャンパスで開く。同大ESRDサークルが1年にわたって取り組んできた、タイと東北を笑顔でつなぐ震災支援企画の実績内容、現場で感じたことを報告する。学生以外も参加可能で無料。報告会後は軽食付きの交流会を予定。参加費500円。申し込み締め切りは16日。問い合わせは同サークル(山田由也研究部)、電話0962(37)9281。

